

課題

低迷の時代

昭和四十年代には、七年連続で年間入園者数が百万人を突破していた円山動物園ですが、レクリエーションの多様化や施設の老朽化など、さまざまな要因が重なり合い、入園者数は減少の一途をたどるようになります。

浮かび上がってきた課題

動物園の役割の変化	レジャー施設の役割が重要視されてきたが、絶滅の危機にある動物の繁殖や環境の維持という、社会的役割を求められてきた。
意識の低下	長年にわたる赤字経営や、そこで働く人々のマンネリ化などにより意識が低下し、経営的視点が欠けてきた。
施設・展示の陳腐化	展示動物数を増やすことに重点を置いてきたため、展示方法や各エリアのテーマへの工夫が欠けている。また、売店や飲食店のサービスも古くさがが目立つようになった。

再生



活発な議論が行われたリスタート委員会

市民の声を取り入れて再生を目指す

市民から、より愛される動物園を目指して、平成十八年六月に「円山動物園リスタート委員会」を発足。市民、経済界、学識経験者、教育界など幅広い分野で構成する十三人の委員により、約一年間にわたって議論を重ねてきました。

今年二月から三月には、広く市民意見を受け付けるパブリックコメントも実施。三十三人、百四十九件の意見が寄せられ、そのうちの約八割の意見を取り入れて、三月二十二日に「円山動物園基本構想」が完成しました。



[目標]
年間入園者
100万人!

二〇一一年度 (平成二十三年度)	二〇〇八年度 (平成二十年)	二〇〇七年度 (平成十九年度)	二〇〇七年 (平成十九年)	六月
集中取り組み期間 (平成20年度～23年度)	先行取り組み期間 (平成19年度)	先行取り組み期間 (平成19年度)	三月	リスタート委員会 発足
19年度に策定した基本計画を実現していく期間。老朽化した施設の改築や新たなイベントの展開などにより、生まれ変わった動物園を実感できます。	基本構想をどのように具体化していくべきか検討し、今後の基本計画を立てます。また、こども動物園など、一部施設の改修を検討しています。	基本構想をどのように具体化していくべきか検討し、今後の基本計画を立てます。また、こども動物園など、一部施設の改修を検討しています。	基本構想が完成	パブリックコメントを実施



単なるレジャー施設にとどまらず、希少動物の保護や、命の大切さを伝える自然環境教育施設としての役割も果たしていくことが、現在の動物園に求められています。

円山動物園も、札幌における環境教育の拠点、そして自然と共生できる都市を目指す上での中核となるために、次の三つの行動を柱に掲げ、取り組んでいきます。

円山動物園基本構想とは？

人と動物と環境のきずなをつくる動物園

「わたしの動物園」という視点からの行動

動物をより身近に感じられる展示など

生物多様性の確保に向けた行動

希少動物の繁殖と自然への復元に向けた事業など

自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動

周辺施設との連携、自然の活用など

新たな視点でイベントを企画

これまであまり活用してこなかった、朝や夜の時間帯や、冬季にも積極的にイベントを行います。

シニア層、親子、カップルなど、具体的にターゲットを絞ったイベントを展開します。



癒しとくつろぎの空間づくり

園内を流れる円山川を利用した「自然体験ゾーン」など、新たな動物舎や展示方法を検討します。

新しいレストランやカフェ、コンビニエンスストアなどを敷地内に造ります。



赤字の解消に努めます

職員の人件費を除いた基礎収支の、収入と支出のバランスが均衡するようにします。

平成23年度の目標

入園者数/年間100万人
経常収入/17年度から倍増
経常支出/17年度から30%削減

構想の詳細は、ホームページでご覧いただけます www.city.sapporo.jp/zoo